

深山延齡草

宮坂静生

湯沸の湯のくれなるや鑑真忌
吾に晩年あらず螢火襲ひくる
二十五時いかに生まんとほととぎす
百獣の風のひそめる穂麦畑
五月の笥ははにかめる石橋辰之助
深山刺草食ぶ齒応へイマジンを聴かう

大学生 岳君へ

君は雄飛深山延齡草しかと
青嵐にもクラークのころざし
百鳥の巣立つ羽音を讃へたし
子は父へさわさわと麦熟るゝ頃
よき朋よ磯ひよどりの深き紺
吉丁虫を寡黙な父に賜りし

一書上梓自祝